

2021年度 岩国YMCA国際医療福祉専門学校 学校関係者評価

2021年度岩国YMCA国際医療福祉専門学校の自己評価を踏まえ、学校関係者評価委員会においてその評価を大項目ごとに実施した。以下のその内容を示した。

I. 教育理念 目的 育成人材像

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	理念・目的・育成人材像は定められている。	4	① 教育理念・教育目的が明確にさだめられている。 ② 本校の果たすべき責任や使命が明確にさだめられている。 エビデンス ・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス（授業計画）・ホームページ・パンフレット
2	学校における職業教育の特色が明らかである。	4	① 職業教育の特色が明文化されている。 ② 教育活動において特性が明確である。 ③ 教育の特色、専門分野の特性の内容が具体的である。 エビデンス ・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス（授業計画）・ホームページ・パンフレット
3	社会・経済のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いている。	3	① 教育活動が、関連業界や社会のニーズを踏まえたものである。 ② 教育活動が社会の変化に対応して見直しがなされている。 エビデンス ・学校関係者評価委員会議事録 ・教育課程編成委員会議事録 ・学校の概況書 ・ホームページ ・パンフレット（募集要項も含む）
4	理念・目的・育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されている。	3	① 本校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者に周知されている。 ② 周知するための手段や方法は適切である。 エビデンス ・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス（授業計画）・ホームページ ・パンフレット ・募集要項 ・保護者会の実施
5	各学科の教育目標・育成人材像は、対応する業界のニーズに合っている。	4	① 各学科の教育目標・人材育成像は学校の理念・目的・使命に合致している。 ② 各学科において専門分野の特色、特性が明確になっている。 ③ 社会情勢の変化に対応し、学科の教育目標・人材育成像の見直し等を行っている。 エビデンス

			<ul style="list-style-type: none"> ・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス ・ホームページ ・パンフレット ・募集要項 ・学校関係者評価委員会議事録 ・教育課程編成委員会議事録
--	--	--	---

① 課題

項目 1

- ・ 教育理念のもと、教育目的・育成人材像の確認が必要である。

項目 3

- ・ 社会の変化に対応して見直しがされているかの確認が必要である。

項目 4

- ・ 教育理念や教育目的などについて、学生や保護者に周知には努めているが、保護者がどこまで周知しているかは確認できていない。

② 今後の改善方策

項目 1

- ・ 教育理念のもと、教育目的・三つのポリシーを策定する。

項目 3

- ・ 将来構想について学校の特色を含め社会の変化に対応するために学校関係者評価委員会等で地域や関連業界が本校に求めるニーズについて意見をいただきながら検討をしていく必要がある。

項目 4

- ・ 教育理念や教育目的などを保護者がどこまで周知できているかを確認する方法を検討していく必要がある。

【学校関係者評価】

教育理念・教育目的・育成人材像が定められているが、今後の社会状況の変化を踏まえ、確認・変更していく必要があると思われる。また、教育理念・教育目的・育成人材像について学生、保護者等への周知については、引き続き周知方法やその評価の仕方を検討してほしい。

II. 学校運営

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	目的や事業計画に沿った運営方針が策定されている。	4	① 毎年運営方針が明示されている。 ② 運営方針は本校の理念に沿ったものである。 ③ 運営方針は事業計画に沿ったものになっている。 ④ 教職員は事業計画、運営方針を理解している。 ⑤ 教職員は学校運営方針に従い行動している。 エビデンス ・学校の概況書（運営方針）・教職員研修会の実施・学科会議録 ・教職員の年間目標、具体策の立案
2	規則等において明文化され、運営組織や意思決定機能は機能している。	4	① 学校運営に必要な会議・委員会が存在し、その機能が規程等で明文化されている。 ② 意思決定機能を持つ運営会議と他の会議・委員会との関係が規程などで明文化されている。 ③ 各種の規定に基づき、学校の運営がされている。 ④ 各教職員は、組織的な連携の下、自らの行動や役割を理解し活動している。 エビデンス ・運営会議議事録 ・教務委員会議事録 ・学生生活委員会議事録 ・入試広報委員会議事録 ・図書委員会議事録 ・自己点検・自己評価委員会議事録
3	人事・給与に関する制度は整備されている。	3	① 人事考課の基準が明確である。 ② 給与規定が定まっている。 ③ 教職員が人事・給与に関する意見を申し出る窓口が存在する。 エビデンス ・採用辞令・広島 YMCA 就業規則・人事考課シート・給与規程
4	教務、財務などの組織整備など意思決定システムは整備されている。	3	① 教務、財務などそれぞれに必要な手続きが教職員に周知されている。 ② 規定等の検討・改善の努力がなされている。 ③ 最終的な意思決定の前に、教職員の意見・要望が反映されている。 エビデンス ・広島 YMCA 就業規則

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
5	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されている。	3	<p>① 学校運営にあたり、学校または法人としてのコンプライアンスに関する規程またはそれに準ずるものが存在する。</p> <p>② 教職員および学生は、実習や社会生活を円滑に進める上での規則・マナーを遵守している。</p> <p>③ 実習等で発生した、違反・逸脱・過失に対して速やかな対応ができています。</p> <p>エビデンス</p> <p>・ 広島 YMCA 就業規則 ・ 学校関係者評価委員会 ・ 臨地実習指導者会議 ・ 学生便覧</p>
6	教育課程に関する情報公開が適切になされている。	4	<p>① 本校の理念・教育目的・各学科の教育目標等、各学科のカリキュラムおよび年間の授業計画に関する情報を公開している。</p> <p>② 入学試験の方法等および入学者数、収容人数および在学者数について、また授業料他の徴収する費用に関する情報を公開している。</p> <p>③ 卒業者数、進学者数及び就職者数と資格取得状況・就職状況等の情報を公開している。</p> <p>エビデンス</p> <p>・ ホームページ ・ パンフレット ・ 募集要項 ・ 学校関係者評価委員会議事録 ・ 教育課程編成委員会議事録</p>
7	ICT を活用した情報システム化等による業務の効率化が図られている。	3	<p>① 会議・連絡事項等についてはメール等を通して教職員間で共有が図られている。</p> <p>② Wi-Fi 等の活用で教育活動が改善されている。</p> <p>③ 情報システム化により無駄な業務が減少した。</p> <p>エビデンス</p> <p>・ 学校内 Wi-Fi 設置（2016 年～）・ Google Classroom の導入 ・ 成績管理システム ・ 遠隔授業の実施（Zoom）</p>

① 課題

項目 3

- ・ 教職員が人事や給与に関する制度の周知が図れているのか確認する必要がある。

項目 4

- ・ 教職員が教務、財務などの必要な手続きや教務や財務などの組織整備などの意思決定システムについて、周知されているか確認する必要がある。

項目 5

- ・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制について強化していく必要がある。

項目 7

- ・ 情報システム化により業務の効率化が図られたかどうか確認する必要がある。

② 今後の改善方策

項目 3・4

- ・ 教職員が人事や給与に関する制度や財務などの必要な手続きや教務や財務などの組織整備などの意思決定システムの周知の現状を把握し、周知の方法を検討する。

項目 5

- ・ 学校としてコンプライアンス体制の整備にむけて検討していく必要がある。

項目 7

- ・ 情報システム化により業務の効率化が図られているか把握する方法を構築する。

【学校関係者評価】

学校運営は概ね良好と考えられる。ICT を活用した業務の効率化は今後も進めてほしい。

III. 教育活動

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。	4	① 各学科のカリキュラムは学校の理念に沿い、編成されている。 ② どのような考え方でカリキュラムが編成されたが明らかである。 エビデンス ・教育課程編成時の議事録 ・教育課程編成委員会議事録 ・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス ・ホームページ ・パンフレット
2	教育理念・育人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされている。	4	① 各学科の履修時間は学校教育法を満たすものである。 ② 各学科は、資格取得及び人材育成のためのカリキュラムを編成している。 ③ 各学科の教育目標は、必要とされる資質や能力を具体的に示している。 エビデンス ・教育課程編成時の議事録 ・教育課程編成委員会議事録 ・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス ・ホームページ ・パンフレット

3	各学科のカリキュラムは体系的に編成されている。	4	<p>① 教育内容が関連性、習熟度を考慮した順序性で編成されている。</p> <p>② 学校教育法に定められている時間数・単位数以上の授業を行っている。</p> <p>③ 授業科目の内容はシラバスに記載され、それに沿って授業されている。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学校の概況書（学則別表）・学生便覧（学則別表）</p> <p>・シラバス ・ホームページ ・パンフレット</p>
4	キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されている。	3	<p>① 各学科に関連した業界の資格取得のための受験要件を満たしたカリキュラム内容である。</p> <p>② 各学科の教員による授業研究、公開授業が実施されている。</p> <p>③ 職業を持つことの意義と幅広い視点から職業の範囲を考えられるよう指導をしている。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学校の概況書・学生便覧・シラバス・ホームページ・パンフレット・就職講座の実施</p>
	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
5	関連分野の企業関係施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われている。	3	<p>① 各学科の教員を中心にカリキュラム内容の検討・改善を実施している。</p> <p>② 学外の委員を含むカリキュラム検討委員会が開催されている。</p> <p>③ カリキュラム改善のための検討内容を示すものが存在する。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学科会議録 ・学校関係者評価委員会議事録</p> <p>・教育課程編成委員会議事録</p>
6	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。	4	<p>① 各学科のカリキュラムの中で実習等が明確に位置づけられている。</p> <p>② 実習等について目的・目標等を明記した要綱が存在する。</p> <p>③ 実習等において教員と実習先の指導者との連携がとれている。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学校の概況書 ・学生便覧 ・シラバス ・実習指導要綱</p> <p>・実習指導者会議録</p>

7	授業評価の実施・評価体制がある。	4	<p>① 教員・講師による授業の自己評価を実施している。</p> <p>② 学生による授業評価を実施している。</p> <p>③ 授業評価の実施及び検討組織として「自己点検自己評価委員会」が活動している。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学生の授業評価の実施・自己点検・自己評価委員会議事録</p>
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れている。	3.5	<p>① 関係業界の外部委員を含む学校関係者評価委員会が定期的に開催されている。</p> <p>② 学校関係者評価委員会の意見を改善に活用している。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学校関係者評価委員会議事録</p>
9	成績評価・単位認定の基準は明確になっている。	4	<p>① 学則および履修規程など、成績評価・単位認定の基準を明文化している。</p> <p>② シラバス、実習要綱等を通して、単位認定の基準を明らかにしている。</p> <p>③ 単位認定試験を不合格になった際の対処方法が明確化されている。</p> <p>エビデンス</p> <p>・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・学生便覧</p> <p>・シラバス</p>
	項目	中央値	評価基準 (エビデンス)
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはある。	4	<p>① 資格取得指導を行うための教員の指導体制、教材教具が整っている。</p> <p>② 学生が目指す資格は本校の教育理念・目的等に合致し、教育の成果としてとらえることができる。</p> <p>エビデンス</p> <p>・岩国 YMCA 教職員の組織図 ・学生便覧 (学則別表)</p> <p>・シラバス</p>
11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保できている。	3	<p>① 各学科には教育活動を行う上で必要な教員数が配置されている。</p> <p>② 教員は、教育に関する専門的な知識・技能を有している。</p> <p>③ 教員を評価するための評価システムが存在する。</p> <p>エビデンス</p> <p>・岩国 YMCA 教職員の組織図 ・シラバス (授業計画)</p> <p>・人事考課</p>

12	関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われている。	3	<p>① 教職員募集に当たり、関連する業種の施設・人等から情報を得ている。</p> <p>② 日頃から優秀な人材確保の為に努力している。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校関係者評価委員会議事録 ・ 求人募集に関する資料
13	関連分野における先端的な知識技術等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取り組みが行われている。	3	<p>① 教職員の資質向上のための研修が定期的に行われている。</p> <p>② 教職員が資質向上のために自己研鑽するための時間確保、経済的支援を行っている。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員研修会の実施（4・8・12月） ・ 研修参加者がわかる資料 ・ 研修報告書
14	職員の能力開発のための研修等が行われている。	3	<p>① 資質向上のための研修等の情報を広く、教職員に公開している。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員研修会の実施（4・8・12月） ・ 研修参加者がわかる資料 ・ 研修報告書

① 課題

項目 4

- ・ 教員の授業研究や公開授業の実施が学科間で格差がある。
- ・ 学科内でのカリキュラム編成委員会の活動が滞っており、学科内での共有も不十分である。

項目 11～13

- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による影響で、教職員の資質の向上のための自己研鑽の時間の確保が困難になっている。

② 今後の改善方策

項目 4

- ・ 学科間での格差の原因を明らかにし、授業研究や公開授業が実施できる方法を検討していく。
- ・ 教員間での業務の調整を行い、カリキュラム編成委員会を開催する。
- ・ 学科会議でカリキュラムの運用状況、今後の検討課題について共有する時間を確保

していく。

- ・ 項目 11～13
 - ・ 特定の分野に精通した講師への依頼をしていく。
 - ・ 教職員の自己研鑽の時間の確保のために、まず教職員の業務内容の分析をする。

【学校関係者評価】

コロナウイルス感染症の影響で自己研鑽が困難な状況であったことは想像できるが、今後状況も改善すると思われるのでぜひ実施していただきたい。また、教員の授業研究や公開授業はどの学科も実施できるようにしてほしい。

IV. 学習成果

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	就職率の向上が図られている。	4	① キャリアガイダンスや就職説明会等の機会を設けている。 ② 就職試験に向けての指導・助言や模擬面接を実施している。 ③ 学生の就職活動のための公休等を設けている。 エビデンス ・就職講座の実施 ・就職（進学）説明会報告書 ・就職試験申込書 ・就職試験報告書
2	資格取得率の向上は図られている。	4	① 資格取得に向けて学習支援の体制がある。 ② 資格取得に向けて模擬試験等の機会を設けている。 ③ 資格取得に向けて、指導・相談が適切に行われている。 エビデンス ・国家試験対策ガイダンスの実施・国家試験模擬試験の実施 ・専任教員・非常勤講師の補講の実施・チューター制度
3	退学率の低減が図られている。	3	① 学則に卒業認定、中途退学認定、除籍認定、休学等の既定が定められている。 ② 休学、中途退学者、除籍者の理由等の調査と分析・評価を継続的に行い、その結果を改善・向上につなげている。 ③ 成績不良者、進路に不安を持っている学生に対して、十分

			<p>に話を聴き、対応を配慮している。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の概況書 ・学生便覧 ・学生面接記録 ・保護者面談記録（対面、電話、オンライン） ・保護者会の開催記録 ・カウンセリングの実施
4	卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握している。	3	<p>① 卒業生、同窓会とのネットワークが形成されている。</p> <p>② 卒業生が就職した関連施設と適宜連絡を取っている。在校生の学外活動について、把握している。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会会則 ・実習指導者会議
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されている。	3	<p>① 実習施設と卒業生のキャリア形成の状況について意見をもらう機会を設けている。</p> <p>② オープンキャンパスや学校祭等の機会を活用して、卒業生との交流をはかっている。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット

① 課題

項目 1

- ・ 就職試験が早くなっており、就職活動のガイダンスの時期を検討していく必要がある。
- ・ 第一希望の就職先への内定が出ず、複数回の受験をする学生が増えている。

項目 2

- ・ 保健看護学科 看護師国家試験合格率 97.4% 保健師国家試験 合格率 78.9%
- ・ 看護学科 看護師国家試験合格率 96.0%
- ・ 介護福祉学科 介護福祉士国家試験合格率 100%

保健看護学科・看護学科ともに、前年度と比較すると看護師国家試験の合格率は上昇しているが、全員合格には至っていない。介護福祉学科は、国家試験開始年から100%を継続することができている。保健看護学科の保健師国家試験は、前年度と比較すると低下している。

項目 4

- ・ 同窓会の活動が活発ではない。
- ・ 実習施設以外の卒業生の動向が把握しにくい。

項目 5

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパス等で卒業生に来校してもらうことができていない。

② 今後の改善方策

項目 1

- ・ 就職ガイダンスの時期と内容を検討する。

項目 2

- ・ 国家試験対策の時期と内容を検討する。

項目 4

- ・ 同窓会との連携の強化の方法を検討する。
- ・ 卒業生アンケートやホームカミングデーの実施の検討をする。

項目 5

- ・ オンラインでのオープンキャンパスの参加の検討をする。
- ・ 実習指導者会議での意見交換の充実を図る。
- ・ 実習施設へのアンケート調査実施に向けての検討をする。

【学校関係者評価】

今後も国家資格合格率向上と就職対策の強化に努めてほしい。

V. 学生支援

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	進路就職に関する支援体制は整備されている。	3	① 各学科で、進路就職に関する支援窓口が明確で、学生に周知されている。 ② 進路就職に関する支援内容等について蓄積し、今後の学生への相談・支援に活用している。 ③ 進路就職に関して、必要に応じて保護者と連絡・面談等を実施している。 エビデンス ・ 就職講座の実施 ・ 就職（進学）説明会報告書 ・ 就職試験申込書 ・ 就職試験報告書 ・ 保護者面談記録
2	学生相談に関する体制は整備されている。	3	① 学生が相談できる相談室等の環境が整えられ、様々な相談に対して対応・対処している。 ② カウンセラーを配置して、学生相談室で定期的に学生に対応している。 ③ 学生の相談に対して、学生のプライバシーの保護に十分配慮している。

			<p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの実施
3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されている。	3	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業料減免制度および奨学制度等、規程が定められ、規程に基づき運用されている。 ② 授業料減免制度、奨学制度等は学生・保護者に周知されている。 ③ 学校が関与しなかった奨学金等については、入学後その有無を把握している。 <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学検定料・入学金・授業料免除又は一部免除等に関する規程・授業料特別分割納入・岩国 YMCA 奨学生規程・学生便覧
4	学生の健康管理を担う組織体制がある。	4	<ol style="list-style-type: none"> ① 健康管理規程が定められ、学校医の選定および規定に基づき、毎年学生・教職員の健康診断を実施し、結果を保管している。 ② 保健室を完備し急病等に対応できる薬品等を準備している。 ③ 学生の出欠状況と欠席・欠課の理由について把握している。 <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の実施（4月）・保健室使用名簿 ・出席・欠課届　・月別出席簿 ・単位修得・卒業認定会議規程
	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
5	課外活動に対する支援体制は整備されている。	3	<ol style="list-style-type: none"> ① 学生の課外活動支援の種類や内容が規程されている。 ② 学生生活委員会を中心に学生自治会等に対して適切に支援している。 ③ 課外活動支援は本校の理念・目的に適っている。 <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生生活委員会規程・学生自治会会則・サークルに関する規程 ・年間行事予定表・時間割
6	学生の生活支援体制は行われている。	4	<ol style="list-style-type: none"> ① 学生の住所、同居者の有無などを把握している。 ② 始業時連絡なく出席していない場合、状況を確認している。 ③ 生活の乱れが窺われる学生については、個人面談等を実施し、相談・助言等を行っている。 <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人記録・教務日誌・面接記録

7	保護者と適切に連携している。	4	① 毎年、各学科で保護者会を開催している。 ② 必要に応じて、保護者と連絡・面談等による相談等を実施している。 ③ 学生の成績等は保護者に郵送等で知らせている。 エビデンス ・保護者会の開催・保護者面談記録・前期・後期の成績表の送付
8	卒業生への支援体制がある。	3	① 各学科の卒業生名簿が存在する。 ② 卒業後の国家試験への挑戦について、便宜を図っている。 ③ 各学科と学科の卒業生との連携・協力体制がある。 エビデンス ・学籍簿管理規程・既卒者の国家試験受験に向けての対応 ・同窓会会則
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されている。	3	① 地域社会のニーズに沿って、イベント等の企画・運営を行っている。 ② 地域のニーズで、教育活動に支障のない範囲での施設・設備のレンタルなどを実施している。 ③ 地域の主催するイベント等に参加協力している。
10	高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われている。	3	① 定期的に高校等の生徒等を対象にオープンキャンパスを開催し、その評価も実施している。 ② 高校生等を対象に進学相談等の機会を設けている。 ③ 公開授業等を開催して、本校の職業教育についての理解を広めている。 エビデンス ・オープンキャンパス・いつでも説明会・学校説明会の参加

① 課題

項目 10

- ・ 学校説明会の実施後の高校生の反応が確認できていない。

② 今後の改善方策

項目 10

- ・ 高校との連携も含め、学校説明会の実施後の高校生の反応を把握する方法を検討していく。
- ・ 高校生の反応を把握した上で、本校の教育活動を周知するための方法を検討していく。

【学校関係者評価】

学生支援については手厚くなされていると思われる。引き続き継続してほしい。また、高校との連携は募集にも影響するため、積極的に実施することを検討してほしい。

VI. 教育環境

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている。	3	① 教育用機器備品は整備されて、活用されている。 ② 教室、教員室、事務室、その他図書室、会議室など必要な付帯事業を行う部屋がある。 ③ 自主学習が可能な環境が整備され、効果的に利用されている。 エビデンス ・校舎管理規程 ・施設使用に関する規程 ・物品管理規程 ・図書委員会規程 ・図書管理及び利用規定 ・学生満足度調査
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備している。	3	・ 教育に必要な実習施設、設備が必要十分に確保できている。 ・ 学生数に対して十分な実習室が整備できている。 ・ 定期的に海外研修について企画し、学生の希望に沿って実施している。 エビデンス ・校舎管理規程 ・施設使用に関する規程 ・物品管理規程 ・学生満足度調査
3	防災に対する体制は整備されている。	3	① 防災規程が整備され、毎年防災訓練が実施されている。 ② 学校は、安全・防犯面について対策を実施している。 ③ 各場所に防災責任者が決められ、防災に対する体制が整備されている。 エビデンス ・防災規程 ・防災マニュアル ・校舎の平面図 ・消防計画 ・学生便覧

① 課題

項目 1

- ・ 第 10A 教室のパソコンの起動状況が悪い。

項目 2

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際交流の企画ができていない。

② 今後の改善方策

項目 1

- ・ パソコンの整備・点検を実施し、教育活動に支障がないようにしていく。

項目 2

- ・ 海外研修以外の方法で、国際交流を図る方法を検討していく。

【学校関係者評価】

教育環境の整備は学生の学びに支障がないように実施してほしい。人的交流は人間性を磨くよい機会ではあるので、今後はボランティア活動等にも積極的に関わる機会を設定してほしい。

VII. 学生募集

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	学生募集活動は、適正に行われている。	3	① 入学生の受け入れ方針が明確に定められ、学科はその方針に従って学生の受け入れを行っている。 ② 学生募集に関して学校訪問や募集要項等を通して志願者に必要な情報を公開している。 ③ 各学科の教育目標、育成人材像、業界のニーズに合致した学生募集がなされている。 エビデンス ・ 入試広報委員会議事録 ・ 入学試験等に関する規程 ・ 個別入学資格（留学生等）審査要領・ホームページ ・ パンフレット ・ 募集要項
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられている。	3	① 各学科の資格取得率を示している。 ② 各学科の卒業生の主な就職先を示している。 ③ 入学者数、卒業者数等の変化を示している。 エビデンス ・ 学則・学則細則・諸規程 ・ 学校の概況書 ・ ホームページ ・ パンフレット

3	学納金は妥当なものである。	3	① 学納金とその内訳を公表している。 ② 学納金について適宜検討して、妥当なものであるか評価している。 エビデンス ・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・ホームページ ・募集要項
---	---------------	---	---

① 課題

項目 1

- ・ 各学科の教育目標、育成人材像、業界のニーズに合致した学生募集ができていないか、確認することができていない。

② 今後の改善方策

項目 1

- ・ アドミッションポリシーの策定を行う。
- ・ 学校関係者評価委員会等の意見をもとに、学生募集についての現状を検討していく必要がある。

【学校関係者評価】

18歳年齢人口が減少する中、募集活動はより厳しくなると考えられる。さまざまな工夫を凝らし、多くの学生に学びの場を提供できるように努めてほしい。

VIII. 法令遵守

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	4	① 専門学校設置基準等の法令遵守がされ、学校運営がなされている。 ② 学内の規程は、遵守すべき法令に沿って規定されている。 ③ 法令遵守について教職員に徹底している。 エビデンス ・学則・学則細則・諸規程・学校の概況書・広島 YMCA 就業規則 ・ハラスメント防止に関する規程
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	4	① 学校の理念にのっとり、職業人として個人情報保護に関する教育・指導を、定期的また必要に応じて実施している。 ② 学生の個人情報保護に関する規程が定められている。 ③ 実習等に関して対象者の個人情報を保護するための対策がなされている。

			<p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関する規定・個人情報保護に関する承諾書
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めている。	4	<p>① 自己点検自己評価委員会規程に基づき自己評価を進めている。</p> <p>② 教員・学生による授業評価、学生による実態満足度調査、教職員による学校自己評価アンケートを毎年実施している。</p> <p>③ 毎年運営方針に基づき、各学科、各委員会が目標を掲げて活動し、中間評価、年度末評価をしながら改善に取り組んでいる。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・自己評価委員会議事録・学生による授業評価の実施 ・学生による実態満足度調査の実施・各委員会の議事録
4	自己評価結果を公開している。	4	<p>① 授業評価等の各評価基準は、自己点検自己評価委員会で公表内容、公表方法等を検討して公表している。</p> <p>② 適宜、公表内容、公表方法等の改善について検討している。</p> <p>エビデンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会議事録・ホームページ

① 課題

項目 3

- ・ 学校自己評価アンケートの評価基準について、現状に即していないことが考えられる。

② 今後の改善方策

項目 3

- ・ 自己点検・自己評価委員会で学校自己評価アンケートの検討をしていく必要がある。

【学校関係者評価】

法令遵守に関してはきちんと行えているものとする。自己評価規準やアンケート内容については今後、検討を重ねてほしい。

IX. 社会貢献、地域貢献

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	学生のボランティア活動を奨励支援している。	3	① 適宜、ボランティアの意義や活動を学生に周知している。 ② 災害時や年末の国際協力募金、チャリティ・ラン等、毎年継続して実施している。 ③ 学生のボランティア活動について発表の場や表彰等を通じて評価している。 エビデンス ・ シラバス・年末の国際協力募金の実施 ・ チャリティー・ランの実施（岩国駅）
	地域に対する公開講座、教育訓練の受託を積極的に実施している。	3	① 学校の施設設備を地域の活動のため利用できるようにしている。 ② 毎年市民を対象に公開の講演会を開催している。 ③ 市からの受託事業などに積極的に参加している。 エビデンス ・ 貸室記録・特別講演会開催要項

① 課題

項目 1

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティア活動を積極的に実施できていない現状がある。

項目 2

- ・ 市民を対象にした公開の講演会が開催できていない。

② 今後の改善方策

項目 1

- ・ 感染防止対策を図りながら、ボランティア活動ができるように企画していく。

項目 2

- ・ 感染防止対策を図りながら、特別講演会を従来通り市民に公開できるように企画していく。

【学校関係者評価】

今後はボランティア活動など積極的に行ってほしい。また、地域との関わりも学校を円滑に運営するために必要と思われるのでこれまで以上に連携を図ってほしいと考える。

X. 国際交流

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	3	① 各学科とも「英語」をはじめとして国際的視野を広げるための科目設定を行っている。 ② 特別授業等を通して、学生の国際的視野を広げる必要性・意義を教授している。 エビデンス・シラバス
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3	① 学生が自己学習に利用できるOA教室を設備している。 ② 図書室に必要な書籍が整備され、適宜更新される体制を整えている。 ③ 毎年、海外留学生との交流や、海外研修の機会を企画し、運用している エビデンス・学校の概況書
3	留学生の受け入れや国際交流を行っている。	3	① 留学生の受け入れについて体制づくりのための検討が行われている。 ② 海外からの学生と本校学生との交流の機会を作っている。 エビデンス・教務委員会議事録
4	学習成果が国内外で評価される取り組みを行っている。	2	① 各学科の分野における学会等の情報を学生に周知している。 ② 卒業後、それぞれの分野で業績を発表できる為の基礎的な知識を教授している。 ③ それぞれの分野における学会等に参加する機会を設けている。 エビデンス シラバス・時間割

① 課題

項目 2・3

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、国際交流の機会がない状況が続いている。

項目 4

- ・ 予定していた学会が中止となり、参加ができない状況が続いている。

② 今後の改善方策

項目 2・3

- ・ 対面での交流が難しい場合は、オンラインでの交流をするなど方法を検討していく。

項目 4

- ・ 学会が中止になった場合もオンラインでの学会での参加を検討していく。

【学校関係者評価】

国際交流も状況を鑑みながら、可能な範囲で実施してほしい。

XI. 財務

適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

	項目	中央値	評価基準（エビデンス）
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言える。	2	① 学生数、入学者数、卒業者数、専任教員数などを示す資料の存在がある。 ② 財務諸表（資金収支計算書、消費収支計算書等）は適正かつ正確に作成されている。 ③ 教育活動を行うのに十分な資産を有している。 エビデンス ・学則・学則細則・諸規程 ・学校の概況書 ・事業報告書 ・収支計画書 ・会見監査報告書
2	予算収支計画は有効かつ妥当なものになっている。	3	① 予算計画の策定に、教職員の意見は取り入れられている。 ② 学校運営、教育活動に係る予算・収支計算が作成され、実行されている。 ③ 教育活動を実施する上において、施設設備、教材・教具、図書等に必要予算配分がなされている。 エビデンス ・全体予算書 ・収支計画書
3	財務について会計監査が適切に行われている。	2.5	① 財務の会計監査は適正に行われている。 ② 会計監査の結果は、教職員に周知されている。 ③ 監査報告書が存在する。 エビデンス ・会計監査規程
4	財務情報公開の体制整備はできている。	3	① 財務情報公開の内容、方法や手段の検討がなされている。 ② 教職員は財務情報について情報提供されている。 エビデンス ・財務書類等閲覧規程

① 課題

項目 1～4

- ・ 財政基盤の安定には学生数の確保が必要であるが、中長期的な財務基盤安定の判断基準が必要である。

② 今後の改善方策

項目 1～4

- ・ 各学科で学生数確保に向けての具体的目標を設定し、その対策を実行していく。

【学校関係者評価】

学生募集が財務安定の基盤であるので、募集活動を充実させてほしい。また、会計監査の状況等は教職員にも周知する必要があると考える。

以上